京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

京城居留民團公文

京城居留民團告示第八號（其ノ二）

明治四十二年度京城居留民團歳入出豫算及同年度京城居留民團特別會計漢城病院歳入出豫算左ノ如シ

明治四十二年四月十五日　京城居留民團民長　熊谷賴太郎

明治四十二年京城居留民團歳入出總計豫算

歳出經常部（續）

第八款	公園費	金二百五十圓
第一項	修繕費	金二百五十圓
第九款	墓地及火葬場費	金一千四百七十七圓
第一項	墓地費	金五十圓
第二項	火葬場費	金一千四百二十七圓
第十款	接待費	金一千二百圓
第一項	接待費	金一千二百圓
第十一款	雜支出	金二千七百十圓
第一項	神社費	金四百三十五圓
第二項	撫恤金	金一百十七圓
第三項	保險費	金二千○五十八圓
第四項	雜出	金一百圓
第十二款	豫備費	金九千七百三十七圓
第一項	豫備費	金九千七百三十七圓
小計		金十六萬九千五百六十二圓

東拓人物評論（八）

▲吉原副總裁▼（二）　翠山

世に若し循吏として之が典型を求むれば、氏將蓋し氏の如きは其の隨一に位すべし、氏の精切つて五十餘年、母の胎内に宿れる頃より既に其の魂は循吏として世に起つべく自然と備はり居りしものなるべし、緻密にして而も精毅なる頭腦、質朴にして而も温和なる心事、平板にして而も單調なる手腕は確かに循吏としての資格に於て一點間然する所なし、餅屋は餅屋、酒屋は酒屋と自然の境遇は定まり居れるもの、天も亦不思議にも其の境遇と地位とに恰當すべく氏の如き人物を造り出したるもの哉、氏顔色蒼白顴骨高く頬肉削け、清癯瘠身眉宇の間自ら其の神經家たるを表はせり、而も卒然として之を眺めば一個凡々たる村夫子近き語れば温然玉の如き好人物「人の好きれ爺さんなり」「人の好さそうな人物なり」とは氏を知れるもの又は氏の容貌を一見したるもの、一般に口にする所なり、思ふに倨傲にして尊大、傲慢にして不遜なるは一般循吏の事なれども氏にあつては然らず寧ろ謙遜辭讓常に依然として渝るなし、之れ蓋し氏が天稟の性質に依りしや又は多年の經驗より嚙み分け來りし結果か何れにしても此の點丈は多年官海に游泳せし人物としては珍らしきことゝいはざるべからず。

繰り返す余は氏を目して敢て循吏といふ蓋し循吏とは即ち刀筆の吏といふ意味に近し故を以て言或は聊か穩當を缺き、禮を失するの嫌なきに非ざれども思ふに氏が從來の行徑こ天賦の性質とに徹して余輩は彷彿近斯く批評すに憚からざるなり言ふ迄もなく刀筆の吏諂を替へて言へば由來俗吏なるものは終に薄書堆裡に埋頭して一定一劃の事務を掌り、而も一局の責任を完うし併せ上官に對して常に温厚和易ならんにはソレに足るものなり、侃々當世の事務を談じ、諤々時運の大勢を論ずるが如きは俗吏としての大禁物なり、而して斯く上官に對して温厚和易の風を以て接し而も事務に精勵し職責に忠實ならんか其の人物は時の經過と共に自然〳〵と地位を高め聲名を博し世人の所謂鰻上り的に向上發展するに至るべし而して氏が官海に身を投じてより以來今日に至る迄の行徑は一路坦々其の軌道を逸せず、蒼々として漸進的に自ら地位を高め聲名を博し兎も角も時の内務次官と迄漕ぎ付くるに至れり、故を以て氏の閲歴たるや淡々として他の奇なく、凡々として何等の精彩なく唯柔性の善き杉樹が蓋然として高く聳ね、嶄然として群を拔けると等しき而已、と乎、氏が天性上恰當なる官界に意を斷ちて（一時なりとも）右に動鐵を執り左手に算盤を握る拓殖會社の副總裁となりしは之れ蛸は芋畑に這ひ上りなば自然に鰻と化する蛸より鰻化したる鰻に比すべきや否やは知らざれども、少なくとも彼の越後の國より出稼ぎする角兵衛が俄かに目的を替へて相撲の弟子入りをするも同樣の觀なくんばあらず、但し這は氏が東拓副總裁としての評價を疑ふに非ず、單に一方の境遇より一方の境遇に移動せしことゝ、餘りに氏に取つて著しきものあればなり蓋し人間は境遇の感化と自己の勤勉とを以てすれば如何なる無經驗不馴れの事業と雖も爲さんと欲して遂せざるの理なし、假令氏や新たに無經驗不馴の境遇に就くと雖も一意專心其の職に勵み、其の道を究めなば自ら第二の天性に依りて其の境遇に恰當たるを得べし知らず氏や果して其の心もて副總裁の職務に從事し居るや否や



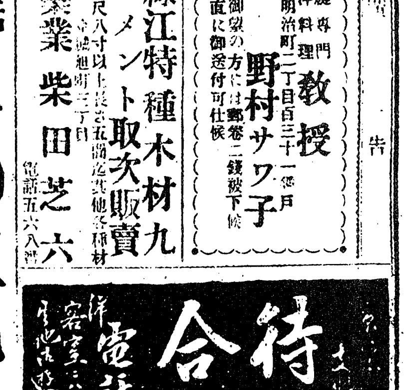
佐倉宗吾

（五十八）眞龍齋貞水講演

播「アイヤ我主君、近頃忠臣を退け、佞人を御近付け遊ばし、晝夜御酒宴に耽り給ひ、御國表の虐政をも顧み給はず、一旦大和の申し上げたる忠言も御用ゐなく、佞人共の申し上げたる事を御採用あそばすとは、甚だ以て宜しからざる思召し、然に賤しき女を御寵愛あそばし、其の女の緣に由り、村岡幸藏の如き惡人を御用ゐ是あるとは、抑もこの十八萬石の御家を大切に思召し給はざるか、御先君加賀守樣に置かせられては千辛萬苦の末、かくは高祿を頂戴あそばされたる御名家なるに、唯今御殿の御代に至つて、この十八萬石に瑕瑾つくやうな事ありては、何の御面目ありて御先祖へ對せられます、又吾々、不肖ながら御補佐の任を辱ふ致し、之を見ながら御捨置き申しては、御先代樣へ對し不忠の至り、殊に御先代樣、最後の際に仰せ遺されたる事も是あるに由り、御先代樣に申し譯のため、今はこの播摩、主君を弑し奉り、腹かき切つて冥途の御供つかまつる」と、鯉口くつろげ、今にも斬つて掛らん有樣、年齡は老つても川越播摩は、堀田家隨一の擊劍家なり、兩眼血ばしり、鬢髮ざわ〳〵と逆立ちて、顔の色は蒼白になり、只一刀の下に、上野介を斬捨てんと睨め詰めたるが、言葉せはしく大和に向ひ　播「コレ大和ッ、汝は後へ退は御家の始末を致せ」とヂリ〳〵ッと進んだ、イヤセツも此所は、座列ぶ御家來はヅッとした、すると上野介殿　上「ア、コレ待て播摩ッ、はやまつては成らぬぞ、暫く控へろ、然らば汝等兩名に、確と申し附け萬事任かするに依て免せ、大和の名儀を僞りしは予が惡い、免せ」との仰せ　播「然らば斯く申する兩名へ對し、此儀仰せ附けられまするか　上「前々の如く、大和へ申し附けるに依て、其方添役として、國表諸役人の取調を致せ　播「ハ、ハアーッ、イヤ其處に御心づかせ給ひしは、御家万々歳にてござる、御登城先に、斯る事を申し上げ奉りしも、是みな御家のため、惡しからず御思召し下され度、イザ御登城あつて然るべく存じまする　上「然らば兩名、頼むぞよ」と仰せられ、是より致して殿は御登城になる大和播摩の兩名は、御小屋へ退り、先づ是にて御家は万代不易なり、愉快〳〵と思召した、然るに茲に、一の騷動出來に及びしは、何しろ辰右衛門と云ふ者が、麻布古川御屋敷から逃げて參りまして、サア淺草觀音へ來て、六八の名主を尋ねたが、是また見當らないから、首を斬られたに違ゐないと、慌てふためきて飛んで參り、國表の百姓へ一々知らせたから、イヤそりや大變と云ふので、それからそれへと騷ぎ立て、既う斯うなるからには、是非に及ばぬと云ふので、將門山へ續々集ることに成りました、此辰右衛門はちと慌てゝ居ましたのだが、併し此樣な事は百姓に以有り勝ちな事でございます、百姓でなくても、右樣な場合には、爾う思ひますのも無理はない、それだから御家には、良い家來があつて、殿樣へ對し、始終御注意を致し居ぬと、昔も今も同じ事、[illegible]んだ事が出來る、愼むべきは色慾兩道と云ふ故、恐れ多い事を申すやうだが、此度ある華族が、禮遇停止を蒙るなど、云ふのは、所謂愼むべき色慾から出でました事にて、實に數代の名家が、茲に亡ぶると云ふやうな不幸を見るに至りますのは、此時の堀田上野介樣の、御家騷動のみならず、明治の御聖代に成りましても、爾う云ふ殷鑑を見るに至る事でございますから、能く〳〵上下ともこの愼むべきは色慾の兩道でございます、世の中に、離れて美しなるものは、色と慾との二つなりけりと、古人の詠まれし道歌がございます通り、實に恐るべきは色と慾との二つでございます。



（佐倉神社ノ神殿）



京城新報

學士の分布

文化の程度は學術の進歩によりてトせらる帝國が世界の文明列國と伍するに至りしは啻に戰勝の餘威のみならず學術の進歩が與つて力あることは何人と雖も認識するに躊躇せず、帝國の最高學府たる帝國大學の卒業者が年々各社會に分布せられ其蘊蓄せる學術を應用して社會の進歩に資する所のもの決して尠なからず、韓國の如きも多數學士の分布を受け居れり、昨十九日の夜には京城法學士會なるもの開催せられたりと聞く、余輩は此機會に於て一種の興味を以て單に法學士のみならず、帝國大學出身の諸種の學士が韓國に分布せられ居る數を概畧調査するに現在韓國に在るもの理法農工林獸藥等の學士數二百十餘人と算せらる、余輩は素より此等の學士なるものが非常の造詣あり深遠なる學者とは思はざるも、帝國最高の學府たる帝國大學の課程を卒へたるものなれば少くも近世の思想を理解する能力を有することを信ずるなり、近世思想の理解力ある此等の學士が各社會に分布せらるゝは取りも直さず舊社會を打破し新社會を建設するの原動力たるなり、殊に韓國の如く未だ大學を有せざる所に斯くも多數學士の供給を受くるは甚だ喜ぶべきこと也、勿論韓國改善の原動力たるべきものは帝國大學出身の人々のみならず高商、早稻田、慶應其他の私立大學若しくは外國大學出身の人も幾多居るべしと雖も、比較的帝國大學出身者多く而も重要の位置に居るもの多きより所謂學士を茲に擧ぐる所以なり、實際に於て韓國の事は幾萬の人によりて經營せられ居るも重要なる部分は此等の人の手中に歸し居れば從て世人より重きを置かれつゝあり、此點に於て其責任の重且大なるを自覺する所あらざる可らず、茲に一の考ふべきことは此等學士なるものゝ分布が官に多くして民間に少きことなり、全部官にあらざるも半官半民の位置にあるもの多く、實際民間に在るものは僅かに全數の一割に過ぎず、其分布の極めて偏倚せるは甚だ遺憾なりとす、或る官人は余輩に語て曰く在留民何者ぞ組織的の新智識を有するものは官界にあり民間には殆ど皆無にあらずや知識の戰ひに於ては在留民は到底官に敵せず云々と豪語したる事あり、實際現在に於ては彼が豪語せるが如き狀態なり、余輩と雖も之を否認する能はず、之れ甚だ遺憾なりと雖も事實なり、然れども韓國の經營は官憲のみに依賴すべからず、民間に於ても組織的の新知識を入れて大に經營せざる可らず、斯くして官憲の壓迫を遮斷すると共に經營の大任に當らざる可らず、然るに此等學士の分布が何故に官に偏倚して民間に少きか、思ふに從來民間に於ては官界よりも困難にして立身の途報酬の点も亦思はしからざる為に偏倚したるならん、故に世人は帝國大學を目して殆ど官吏製造所の如く思ひたり、今日に於ては社會上の地位も報酬も官に劣らざるに至り帝國大學出身者にして實業界に投ずる者も漸次增加し來れり、望むらくは韓國に於ても是等學士が奮て民間に獨立して事業を起し韓國經營に貢せらるゝもの多からん事也、閣設く帝國大學出身者は一種の學閥を造りて何れの所にても其弊を醸すことを免れずと雖も之の事なるが韓國に於ても此弊を持ち來りて學閥を造るが如きは甚だ非なり、宜しく公明雅懷其新知識を發揮すべき也

●官煙發賣禁止問題

[illegible]

仁川の築港

仁川の生命は築港にあり今や同港在住の我同胞は生命問題を解決せんが為に猛然として起てり其健氣なる氣魄は僅かに余輩の同情に値す運動可なり請願可なり如何なる手段を以てしても堅忍不拔最後の目的を貫徹せんことを望む語に曰く精神一到何事か不成

築港前に於て

仁川の築港は大事業なり假令本年内に着手するとするも其完成迄には必ずや三五年を要すべし余輩は其以前に於ても同港の人士が思を繁榮策に致し鐵道積込の費用を節せんが為に船倉庫を用ゐる海陸連絡の設備を全ふするの計に出でんことを望む。

東京電報

▲觀光團の招待 日割

觀光團の招待日割は左の如し
二十二日大倉喜八郎氏の招待會二十三日東洋協會招待會二十四日澁澤榮一氏の招待會二十五日ビール會社招待會二十六日東京市及實業家聯合招待會（十九日發）

外報一束

●土帝權勢回復

テューフイック、パシャが土耳其首相に任命せられたるは自由聯合派の陰謀成就といふよりは寧ろ土耳古帝の權勢恢復を指示するもの也

●獨逸新聞辯駁

獨逸諸新聞は日本が日英同盟を破棄するの意ありとの風説に對し右は英佛新聞が獨逸に嫁したる誣言なりと辯駁せり

●蒙古の露國兵

蒙古兆南府附近に露兵の駐屯するもの多く清國地方官より撤退を迫れども聽かざる旨徐總督より電奏せり外務部より露國公使に抗議するとこならん

●露清條約改正

清國伊犁將軍長庚、烏里雅蘇臺將軍馬亮及び庫倫辦事大臣延祉は連名電報を以て以上各地より露境に輸出する貨物に對し露國は重税を課するも彼より我に輸入せらるゝものは尙舊約を守りて無税なるを以て此際舊約改正をなされ度旨上奏せり

……たる由東亞烟草會社大連支店より京城の某……万圓市中流通高百四十九萬圓餘なれば一ヶ……此價額五百萬圓なり明年は二倍以上となる

●大統領の勸告

大統領タフト氏は關税改定に關して其意見を求めらるゝや議會に勸告して曰く同改正は最も比律賓諸島に利害關係深きを以て同島民の要求とペイン案の條項とを調和せしむる為に之を特別調査局に一任せざるべからずと

●大連富籤改正

大連富籤は一圓四万本、頭彩一萬圓毎月二回開催することゝなり回數殖へたる結果盛に日本内地へ向け輸出しつゝありと

雜報

●副統監の出發

曾禰副統監は豫定の通り佐竹、國分兩秘書官外波武官等を從へ十八日午前八時五十分南大門發列車にて東北海岸巡視の途に上りたるが軍司令官統監府參與官各大臣其の他内外文武官多數の見送人ありたり

●東拓資金貸附

東洋拓殖會社貸金規則は目下日韓兩國政府に認可申請中なるも金融部の營業は既に開始せんとする事とて土地の改良利用を目的とし不動產を擔保として資金の貸付を請求せるもの尠からず同部に於ては目下其の目的方法等審査中にして其の確實なるものには貸付を爲す筈なりと云ふ

●度量衡規則の改正

韓國の度量衡を改正し面積巨離容積重量等共に日本と共通となすの議は官制改正以前より宿題にして兩次官農商工部時代に於て一度成案出でたるも時期尚早論のため其のまゝとなり居りしか今回再び改正の議起り目下當局者に於て審査中にして改正案の出づる近きに在りと

●統監辭職と桂侯

桂首相は如何に統監の留任を切望するも統監辭職の決心は最早動かさるものゝ如し老軀公の如き人をして永く統監の大任を帶ばしむべからざるは明かなることにして桂首相は速かに適任の人を擧げて公に代らしむるを可とす其後任に關して徒らに躊躇するが如きは韓國に對しても我政府の威信を失墜する所以に非ずやと東京の某有力なる新聞紙は論せり

●地方費規則案審議

地方費會計規則案は目下開會中の各道會計主任會議に諮問すべき筈の處法令審査委員會の澤田委員長病氣の爲め未だ同會議に提出するの運びに至らざるを以て平渡府部課長及會計課長は臨時其の大体を制定して之れを同會議に諮るべしといふ

●要塞地帶と漁業

四月一日漁業法施行以來韓國沿岸の漁業は從來の沿革如何に拘らず總べて此の法律を適用せらるゝものなるが鎭海灣永興灣の如き要塞地帶に關しては從來特別の取扱をなし居りしものなれば此の區域内の漁業の免許又は許可に關する取扱は如何にすべきかに關し目下農商工部と要塞司令官との間に交渉中にして遠からず解決する筈なりと

●日露鐵道連絡内容

日露鐵道聯絡内容は東清鐵道、大阪商船、滿鐵道院間の旅客手荷物の聯絡及び東清、滿鐵間の豆、豆粕、麥粉、雜穀等の相互輸送なり雜貨は烏港輸入貨物との關係及び運賃率の懸隔ある爲協定に至らず又寢臺車の聯絡には我が國は初めより加はらずと

●林業事務所の增設

農商工部は本年度に於て林業事務所を增設すべき事は既報せしが愈々昨日の官報を以て木浦鏡城の兩事務所を新設の旨告示せり其の職員は目下任命の手續中にして不日事業を開始する筈なりと

●私立學校と補助

本年度に於て公立普通學校に代用すべき私立普通學校三十校に對して學部は之れに補助すべき由は曩きに報道したる處なるが同部は之等補助すべき學校の選擇に付き種々調査中の處此程略決定したる由なれば不日之れが發表を見るべしと

●閔宮相の晝餐會

閔宮内府大臣は十八日午前九時各大臣を龍山靑坡なる別邸に招待して晝餐會を開き午後四時三十分散會したり

●京城在住學士と職業

本表は匆卒の調査なれば誤謬脱漏あるやも計られず他日詳細の調査を爲し補修することゝなすべし（氏名順の次第不同は御用捨）

職名	學名	氏名
總務長官學務取扱	法	石塚英藏
法部次官	同(博)	倉富勇三郎
度支部次官	同	荒井賢太郎
農商工部次官	同	木内重四郎
學部次官	同	俵孫一
鐵道管理局長	工(博)	大屋權平
内部次官	法	岡喜七郎
法務院長	同	香坂駒太郎
警務局長	同	松井茂
關税局長	同	長濱盛三
鐵道技師長	工(博)	石川石代
京城理事官	法	三浦彌五郎
東洋協會學校分校長	文	河合弘民
第一銀行副支配人	法	三島太郎
同	同	木村雄次
同	同	竹山純平
百三十支店長	同	菅原大太郎
天一銀行支配人	同	遠山熙
十八銀行支店副支配人	同	中西喜久男
興業銀行出張所長	工	高橋榮三
土木請負業	法	阿川重郎
控訴院長	工	城數馬
農商工部技師	法	村田素一郎
通信事務官	同	島田志郎
控訴院檢事	同	辻秀吉
内閣書記官	同	築山直彦
度支部書記官	工	藤山正文
鑛務局長	農	黒岩休太郎
農務局長	法	中村彦
度支部書記官	同	藤川利三郎
京城日社主筆	法	原田豊次郎
警視總監	林	若林賚藏
農商工部技師	法	道家充之
法務院評定官	同	三宅長策
法部書記官	工	松寺竹雄
農商工部技師	同	比田孝一
通信管理局書記官	法	岡本桂次郎
鐵道總務部長		遠藤剛太郎
通信管理局長	同	池田十三郎
法務院評定官	同	淺見倫太郎
司税局長	同	鈴木穆
地方局長	同	澤田牛麿
統監府書記官	同	伯爵 兒玉秀雄
統監府秘書官	同	男爵 佐竹義準
學部書記官	文	隈本繁吉
東拓秘書役長	法	嶺八郎
農商工部書記官	同	鶴岡永太郎
東拓理事	同	岩佐理藏
同	同	林市藏
同	同	井上孝哉
東拓殖產課長	農	加賀山辰四郎
内部事務官	法	佐治修三
統監府書記官	同	中山成太郎
同	同	荻田悦造
統監府囑託	文	廣田直三郎
師範學校教諭	文	高橋亨
同	同	長連恒
内部院理事	法	蜷川新
度支部技師	工	坂出鳴海
財務監督局長	法	小林重
度支部技師	工	國枝博
特許局審査官	法	杉田金之介
同	法	人見次郎
度支部書記官	法	草場林五郎
日韓印刷會社副支配人	法	今藤慶四郎
	法	川上邦基

●朴内務大臣の小宴

朴内部大臣は今二十日午後六時半より松井警務局長以下内部各高等官四十四名を翔翠樓に招待し晩餐會を催すべしと

●服部暢氏送別會

服部暢氏の送別會は既報の通り一昨十八日午后六時より花月樓に於て催されたるが來會者官民約三十名鶴原、原田、蜂岸三氏の送別の辭あり、續て服部氏の答辭あり后宴に移りたるが散會せしは午后十一時過なりし

●平賀博士の來韓

韓國工業顧問平賀工學博士は十八日來京したるが昨日は工業傳習所に到りて同所の成績を調査せりと

●平壤の蠶業講習所

平壤桃蹊堂病院主弦鼎氏は今回平壤蠶業講習所を設立せんとし大同門樓上を以て之が場所に充てんものと此程平南觀察道に右借用方出願したりと因に講習生は五十名前後を入るゝ豫定にて實地的敎授をなすといふ

●驛屯土引繼方針

東拓驛屯土引繼は同社に於て既に實地の調査を了し其の準備全く成りたるに依り何時にても引繼に着手し得べきこととなるが十八日東京を出發したる鈴木局長も一兩日の内歸任すべきに付きその上にて交渉を開始する由にて其の方針は當然引繼ぐべき地面の外堤防農業用道路防風林溝渠等に要する土地を見込むべく交渉をする筈にて書面上一反歩のものは實地に於て一反三畝歩斗りを受取る事になるべく別に精密なる測量法等は用ひざる由なるが其土地は概して中位の上に相當するものならんと云ふ（京城通信）

●築港期成大會 光景

仁川築港期成居留民大會は去る十七日午後七時より仁川歌舞伎座に於いて開催せられ頗る盛况を呈したることは前號に報導し置きたるが、當日の入場者は優に世話役より夫々居留民各戸主に對して其の出席を促がしあり殊に仁川の死活に關する大問題なれば午後七時までには既に聽衆一千有餘に達し滿場立錐の餘地なき盛况を呈したり午後七時を報ずるや稻田委員長先づ登壇し築港の必要は十數年前より仁川市民の叫びたる問題にして去る三十九年築港期成同盟會締結せられ時の顧問目賀田男之れを賛助し政府亦調査に着手したるが其の結果今日に至り僅々十一萬圓の出資をなし而も三箇年の繼續事業として同港の浚渫に着手せり吾人は斯かる兒戯に類せる浚渫を以て滿足する能はず即ち爰に大會を開き居留民の最後の決心を固めんとするものなりと述べ次いで伊藤武彦、桑野良太郎、今井忠雄、加藤藤太郎、木塚常三、加來榮太郎、樋口平吾、齊木一葉、顯原修一郎、荻谷壽夫、奥田貞二郎、加瀬和三郎、の諸氏順次登壇して皆各方面より築港の急務なることを論じたる後顯原修一郎氏前號記載の決議文を朗讀して衆に議したる所一人の不贊成者もなく直に決議せられ次いで田中佐七郎氏實行委員五十名の報告をなし最後に稻田氏再び登壇閉會の辭を述べ終りて散會す時十二時也き

●出張所の請願經過

群山農事組合にては同地に東拓出張所の設置を請願せんため宮崎佳太郎、熊本利平の二氏上京し宇佐川總裁に面會し願意を述べたるに熟れ詮議の上何分の回答をなすべき旨答へたりと云ふ

●三浪津學校生徒數

會立尋常小學校の敎師は二名なるが就學兒童數は左の如し

一學年	(男)	十一	(女)	四
二學年	(同)	四	(同)	四
三學年	(同)	六	(同)	三
四學年	(同)	二	(同)	六
五學年	(同)	六	(同)	三
六學年	(同)	三	(同)	三

男三十三女二十三合計五十六名

●敎會堂の建築工事

平壤メソヂスト敎會は今回會堂を新築する事となり昨冬中之が基礎工事を終へしも猶來結氷期に入りし為め工事を中止し居りしが來巡より工事を再起し來る七月一杯までに竣工せしむべき見込なりと聞く

●浄土宗の說敎法要

明治町一丁目浄土宗說敎院にては一昨十八日より來る二十五日迄宗祖御忌會を執行し毎日午後二時よりと八時よりの兩回說敎法要ある由

●澤田地方局長引籠

澤田内部地方局長は過般來風邪の氣味にて目下引籠中なりと

●塗谷警視の送別會

今般某縣警部長に轉任すべきに就き平渡、新庄、岩井及青木の四内部書記官發起となりて二十二日午後五時より花月樓に於て送別會を開く筈なれば出席者は前記四名に迄申込むべしと因に氏は二十五日頃出發すべしと

●漢川江の架橋工事

該工事は昨年八月起工し結氷中も工事を繼續し殆んど晝夜兼行にて從事したる為め今は基礎工事七分通り完成し來る六月頃までには之を終了せしむべき見込の由

●海底電信と工作船

當局者間に交渉纏りたれば該小笠原丸……

公人私人

▲遠藤善十郎（度支部建築所技師） 十七日釜山に向ふ
▲石原半右衛門（釜山民團長） 來京中の處十七日歸釜
▲押田喜訓（富山縣水産組合理事） 同日馬山浦へ赴く
▲グプリユ、リッター（英國セールフレザア會社員） 十七日入京天眞樓
▲杉岡政人（同 上） 同 上
▲木原方吉（佐賀縣水産組合技師） 同日入京原金
▲三浦覺一（大分縣選出衆議院議長） 同日入京浦尾
▲高棟榮吉（富山縣技師） 十八日新義州に向ふ
▲永井金次郎（富山縣事務官） 同上
▲牧田清吉（水原地方金融組合理事） 同日歸任
▲平賀義美（工學博士） 十八日入京天眞樓
▲松尾縫五郎（起業會社員） 同日入京巴城館

近事片々

▲漢城 政界昨今の模様は頗る靜穏にて……りたる報道もなけれど聊か近状を語らん乎
▲現閣 は元老懐柔策に汲々として固完し來り多少効を奏せり其連盟は……
▲大韓 協會は政敵たる宋秉畯去り自黨味の朴齊純の入閣にも左迄惡感情を持た……
▲加之 此際地方の地盤を堅固にせば茲……年ならずして政權は自然吾手に歸さん……
▲統監 の意嚮も未だ吾黨に來らず今……と衝突する場合に非ずと頗る大人氣取り……
▲一進 會にては李容九が多少運動費を……き來るべく今後如何なる行動に出づべき……
▲政府 側も大韓協會側も之に注目しつゝありとは或は眞ならん茲暫く睨み合の姿……
▲近頃 韓政客共が寄ると觸ると評判するは例の聯邦問題なりと云ふ借も馬鹿々々し……
▲或者 は日本が貸金を投じて韓國を開……するならば歡迎すべしと云ふものもありと……
▲銀行 集會所に伊藤公も大隈伯も招待さ……れ隈伯例によりて長廣舌を弄し氣焔を吐く……
▲伊公 の韓國政策を矢鱈に讃め散らすは……據る所はタイムスの好批評のみとは面黒……
▲乃公 グット反身になりて得意になり……ふとは見る機也借も東洋の豪傑也穴賢々々
▲タイ ムスの批評にて伊藤公の喜びて……に其鼻の高さ幾丈とは京童の惡口なりけり……
▲帝國 對清策は益々振はず之に反して米獨兩國は頗に對清策に於て成功しつゝあり
▲新大 統領タフト氏清國開發を政綱の主眼とす米の對清策が振ひ來る亦宜べなる哉
▲タフ ト氏は清國貿易の擴張に最も意を注ぐと聞けば將來の發展必ずや見るべき也
▲獨逸 は其政策米國と異りて飽迄皮肉に出でゝ而も清國に信せらるゝ其手腕極て非凡
▲蒙古 にある露兵は清國官憲の注意にも拘らず撤退せず逆外務部に打電せりと云ふ
▲露國 の蒙古經營に關する思想は頗る堅し近き將來に於て大に發現する所あらん也
▲日糖 事件は存外大問題となれり關係者の拘引せらるゝもの頗る多し併し財界の整清
▲横井 時雄氏の如き人迄拘引せらるゝとは其餘毒は恐るべき程浸潤せり怖るべき哉

제87호 1909. 4. 20.

(日刊)(月曜及祭日翌日休刊) 明治四十二年四月二十日 京城新報 (火曜日) 第八十七號 (三)

…事を評す徐議會に交渉したる上徐議會は斯る命令を發したることなしとの答辯をなし

現在滿洲の軍粟殘高二百七十六萬圓内市中流通高七十九萬圓昨年當期殘高は四百十七…



●小説的事實(一)

究然たる一篇の戀愛小説、或ひは讀者の鼻に附くか知らねど、記者には素より野心もなければ衒ふ氣も無い、唯だ現實に立脚して事實のまゝを書くのであるから人生の半面は這麼ものだと辛抱して讀み給へかし

▲兩手に花　根もない辻の堂の樂書が青年男女の戀の媒介をするが如く原田千代子と川上敏雄との情交は其始め先づ某新聞の三面記事に依つて結ばれた、といふのは敏雄も千代子も同じく京城教會の信徒であるから、之れまでとても隨分往來をしないではなかつたが夫れは單に教會の所謂兄弟姉妹といふ信仰上のお附合ひに過ぎなかつたので別に戀の何のといふ那麽深い意味が籠もつてゐるのではなかつた、然るに俄然昨年の暮頃でもあつたらう、敏雄と千代子とが何か怪しい關係でもあるかの如く某新聞紙上に書き出されたので、二人は驚くまい事か、早速新聞社に交渉して取消丈けはしたものゝ、扨てこれから二人の間は異樣に其の趣きを轉換して何時ともなく所謂神聖(か)なる戀仲となつたのである

千代子は今年二十四歳の何處かと云へば痩せぎすの方でさして美人といふのではないが、頬から口元へ掛けては寂しい微笑が漂へられて何となくいぢらしい顔形である、敏雄には此の千代子の外に今一人相許した戀人がある、それは桂木靜子といつて年は千代子の方よりは二つ三つは下であらう、京城より程遠からぬ某開港場の小學教師で面長の色のくつきりと白い眼の涼しい見るから上品な式部であるで、假りに靜子を眞晝の日輪をうけて咲いた姫百合の花に喩へやうなら千代子は日蔭に辛つと延びた撫子の萎縮た花そのまゝで靜子は温かさうに千代子は寒むさうに一方は明るく一方は暗く見ゐるのも要するに自づからなる境遇の力であろう

▲旅館の灯　白皚々たる北韓山の峯も今は早や夕の幕に閉ぢられて黒い悄ろしい影を殘してゐるばかり、如月始めの風は騒々と板戸を搖すりて大路は人の影さへ見ゐぬ、兹は理事廳通りの某旅館の一室、淋しさうに肩を落として火鉢に兩掌をかざしながら、人待ち顔につくねんとしてゐるのは靜子で、新らしい銘仙の荒い縞の綿入に小紋の羽織を被つてゐるが好んで長く仕立てゝある袖の振から、友禪モスリンの蔦の模樣が鮮やかにこぼれて見ゐる(一)

●屯子のとん智

……大公故に泥足を洗ふ……

誰あろふ伊藤の大公爵閣下を振つたといふ松山の藝妓どん子拍子は土地の新聞記事が本與になつて東京邊の新聞にまで流石は肉彈の著者櫻井中尉の思ひ者だなぞと大そうな御感に預つたやうだが何が借て海に千年山に千年といふ代物だけに或る夜密かに松の月大公閣下のれみ足を揉み〳〵ツイ手が觸り足が觸りさわるか煩惱ドヽの結局が何どやらして憎い烏が啼いて仕舞つたこれを聞いた土地のドル旦怒るまいものか赫つと目を剝いた其の拍子に金縁の眼鏡が落ちる踏む破れる早速どん子を呼び寄せて己れやれと踏むやら蹴るやらどん子は餘りの切なさに夫れは斯ふです殿樣の仰せに背いたとあつては姉はん達に濟まぬことゝは思ひながら旦那のことを思ひ詰めて居る妾モウ此身は何うなろと搆やせぬ女の一念通して見せうと見事肱鐵砲を食はして退けたが夫れが物言の種となつて急に館を歸しては下さらず姉はん達の迫め折檻妾や旦那に逢ひたい〳〵と計つかり思ふて居るものを今日の彼のれ手紙ヤレ嬉しやとれ目にかゝれば又このれ腹立叩いて腹が癒るなれば妾や何ぼうにもと旨くタラシたからドル旦堪るまいものかウンそうであつたか惡かつた熱く〳〵思へば可愛相な大公爵を振つて生での心中立が有難い今日コソ乃公が落籍して手活の花とするぞねサーれジャ、アイ〳〵とは何んと松旭齋も洗足ではあるまいかと松山からの通信をそのまゝ

●可憐なる離鳥(三)

▲天魔に魅入れし亭主
▲孤閨に泣く糟糠の妻

かくて吉三はお初に別れて悄然として立ち歸へりしが何となく物案じげなる顔色を妻のお八重はそれと見てとり「何う遊ばした」と問ひ寄るに吉三はわざと左あらぬ體に「實は前も知つての通り黄金町の知友が此の度び店を擴げるについて是非共百五十圓の金が入用にてそれを俺に達して異れとのたつての頼みもだし難く受け合ひはしては來たものゝ俺とて今は一金の貯へもなき身の何うしたものであろふかと實は思案に暮れてゐる處だ」と眞實しやかに述べ立つれば妻も一時は驚きしか素より一方ならぬ恩人の事故「夫れでは何とかして整へてあげたがよいでせう」と兹に夫婦は金子調達の工面に、夜を明かしたるが翌日吉三は何處よりか百圓餘の金子を調へ來りしかば足らぬ處は妻の衣類を入質して都合百五十圓の金子を携へ夕餉も匆々に出で行かんとせしが流石に吉三も此れがれ八重との別れかと思へば何となく胸迫り後髮を引かれる心地するにぞ「萬一今夜遲くなつたら歸宅らぬかも知れぬから能く氣を注けて取分け火の用心を頼むぞ」と常にもなく優しき言葉を掛けらるゝに妻も何となく心悲しく「早く歸つて下さいよ」と言ふかみにて夫の顔を見詰めたりしが斯くては果てじと氣を取り直ほし「夫れでは行つて來るよ」と言ひ殘して出で行きたるが跡にれ八重は夫の素振りの餘りに訝かしかりしに色々と案じ煩ひ若しやと思ふ虫の知らせに召使ひの韓人をして追跡せしめたるに夫は本町筋に向ひたりと聞きて些しは心を落付けしものゝ何となく氣遣はしく今か〳〵と夫の歸りを待ち續けて其夜は一睡だもなさゞりけり(ヤ)

●大連豆の歐洲輸出

大連より本年歐洲に輸出せし豆は十五万噸…

金羅、忠清、…の三道に亘れる棉花會社本年の作附段別を調ぶれば左の如し…因に右は悉く米國アップランド種とて作柄は殆んど原種に遜色なしと

…系と鹹順との測庫撃綜を更らに差天大連間南地の延長作業に從事すべく目下目論見中

●一昨日の降雨

京城測候所調査

去る十七日支那東海に現はれし低氣壓は北東に進行せんとし南部は概ね曇天となり當地に於ても日沒頃より漸次雨量を増加し午後九時五十分降雨を始め翌十八日午前六時黄海南部に近接したれば全國を警戒せられしが午後二時全羅北道より東進して日本海に出でんとし北東風吹き雨脚亦大となり本日午前三時最低氣壓七百五十七粍を示し同六時三十五分歇降雨みたり其間三十二時間餘に於ける降水量は實に六四、六粍(一坪に付一石一斗八升餘)にして昨年七月下旬の量には及ばされども本年に入りての最多量又既往二ケ年中の第二位にあり而して此の降雨後は一層暖氣増進すべし(昨日報)

●合せ鏡(一)

魚遊痴史

(伊豫之守殿の花較を見て)

▲ぽん太と政子

打つや鼓の音さへぽん太
技藝に其名も鳴り響く
濱のまさごの數ある中で
眞正の藝妓は君ばかり

▲花奴と政菊

鎗は持たねど添へ竹高く
百合の立姿の花やつこ
百合の花には見劣すれど
どこか政菊品位がある

●邦人慘殺さる

原籍香川縣大川郡津田町和田太市(六十)は舟を艤して雜貨食糧品等を搭載して對島を出帆し七日統營を去る海上約三十海里のソンテ島に航するや同島に在りたる暴徒約四十名一齊に銃彈を亂射して船夫二名は辛うじて危を遁れたるも前記の和田のみは終ひに賊彈のため無慘の最後を遂げ搭載貨物及び所持金等は悉しく賊のため掠奪せられたり

●漂流漁夫無事　既報の如く本月十二日江原道江陵郡南津にて漁船三隻暴風の爲め漂流し乘込漁夫百五十名行衛不明となりたるが何れも無事に木浦に漂着したり

●東小門内の花盛　茲兩三日の暖氣にて東小門内植物園附近より工業傳習所後團工ケ岡一帶は百花一時に咲き競ひて得も云はれぬ美觀を呈し茲一週間許りは最も見頃ならといふ

●洋食店の開業　南山町一丁目の料理店いしきは今回熟練なるコックを雇入れ吾町二丁目に西洋料理專門の支店を開業しホーク黨に滿足を與へ居れり

●似合の花較べ

花柳巷談

筆者病氣のため本日休載

●韓語獨習

日語	韓語
洗手水を、下さい	セースツムル、チウシヨ
茲に、汲んで來て置きました	ヨーキイ、トターカノワツスムニタ
れ疲れでありませう	コンハミルツトハムニタ
眠りが、頻りに催します	チヨールミー、チヤククオオ
もー寢る時になりました	インヂニ、チヤルデーカ、テーイヨツソ
れやすみ、ですか	チエムシム、ニツカ

▶平民文庫◀



▲昨夜南山へ遊びに行つたら暗い處から「好く來てくれましたね」と袖を引く者がある吃驚して顔を見ると美しい妻君で「失禮」と云つたまゝ逃げてしまつた(浪人者)▲南山町三丁目本願寺下の黒門搆への妾宅には澤山の男が出入して居るが明治町三丁目の〇〇〇〇會社の重役さんは知らぬか知ら(商店小僧)▲西小門通の〇〇〇亭は毎晩泊り客許りで大繁盛だとよ(悄まれつ兒)▲第一銀行製圖師は新町で女郎に金套を仕掛けたさうだ(某聞生)▲京城の或る印刷所の〇〇君は敷島亭の仲居に熱くなつて往復するとは馬鹿な奴もあつたもんだ(本町の番頭)▲近頃は例の沈沒亭は下宿屋兼業ですか其筋に聞きたし(馬の足)▲太平町の八重咲亭のくらちやんは素見歸りの客に向つて曰はく「妾は貴郎方をとつて喰ひはしないことよ」と累逆夫れ程凄い腕でもあるめえがな(八幡三郎)▲妾も此の頃は漸く開きかけました此第四日曜日に滿開になる積りですから皆さんも妾の散らない内に來て頂戴よ(李桃花)▲過日の紙上に實驗色慾抑制法といふものが出てゐましたが私の實驗によれば人間は決して色慾を全然抑制するのは六ケ敷いと思ひます▲第一婦女子を見るなどとありますが見ない方が却つて情慾は増進するものです▲第三早く眠むる樣にせよとありますが概して情慾の盛んなものは不眠症です▲要するに健康の狀態にある人は決して情慾を制する事は出來ません(南門外無骨太郎)

●天氣豫報

(自十九日午後六時 至二十日午後六時)

西の風曇後晴

十八日		
最高溫度	(華氏)	五八、六
最低溫度		四九、三

列車時刻改正

來る五月一日より當局全線列車運輸時刻及營業哩程の一部左の通り改正いたし候

●主要列車時刻概要

▲釜山京城間急行

	驛	時刻
北行	釜山發	前一〇、四〇
	南大門着	後八、二〇
	仁川着(永登浦乘換)	後九、〇八
南行	仁川發(永登浦乘換)	前八、〇〇
	南大門發	前九、〇〇
	釜山着	後六、三〇

▲釜山新義州間直行

	驛	時刻
北行	釜山發	後九、五〇
	仁川發(龍山乘換)	翌前八、〇〇
	南大門發	前九、一〇
	平壤發	後四、四九
	新義州着	後一一、〇〇
南行	新義州發	前八、三〇
	平壤發	後三、五一
	仁川發(永登浦乘換)	後九、五五
	南大門發	後一〇、四〇
	釜山着	翌前九、三〇

但し釜山京城間に限り隔日(釜山南大門共奇數日發)運行は…

●營業哩程

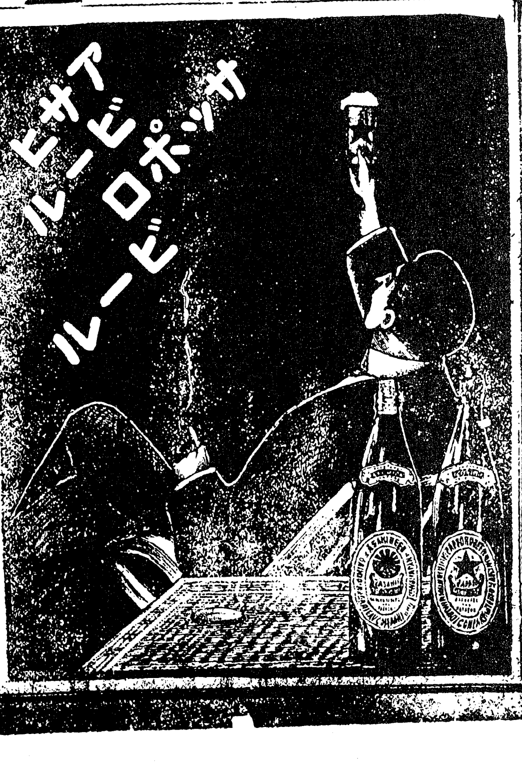
從來の通京仁線改良工事竣成に伴ひ永登浦仁川間營業哩程左の如く改正す從來より一哩短縮の結果該區間發着の旅客及荷物賃金は割安となれり

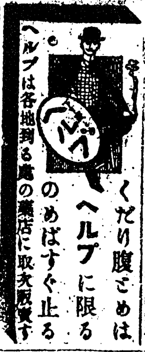
自永登浦	哩
梧柳洞	三、九
素砂	七、六
富平	一〇、九
杻峴	一七、三
仁川	一八、四

改正列車時刻の詳細並に營業哩程改正に伴ふ異動は停車場に就き御承合被下度候

明治四十二年四月

統監府鐵道管理局




ヘルプ

